

411) 通子^{みちこ}

古い日記に涙が落ちて インクの青が薄くにじんだ
 通子のことを愛してるから 別れることを決心したと
 その日の日記に記されていた そして10年月日は過ぎた
 若かったころ一つの夢を とともに求めた僕たちだった

古い日記に涙が落ちて インクの青が薄くにじんだ
 昨日も今日もひたすら生きて その日暮らしの毎日だった
 僕は心の安らぎもとめ 通子は夜勤で疲れきってた
 手探りだった二人の愛に いつしか風が吹き始めてた

古い日記に涙が落ちて インクの青が薄くにじんだ
^{しおり}葉がわりの通子の写真 あの日のままだに輝いている
 通子とそっと呼びかけてみる 通子の瞳がほほえみかえす
 通子よ通子愛する女よ 通子よ通子僕の人生

古い日記に涙が落ちて インクの青が薄くにじんだ
 愛する道子今日でお別れ こう記されて日記が終わる
 通子は今ごろどうしているか 知るすべさえも今はないけど
 寒さの中であの日のように 赤い椿がほほえみかけた

古い日記に涙が落ちて インクの青が薄くにじんだ
^{とき}歳月は流れてまた春が来て あの日のままだにぼくは生きてる
 通子よ通子愛する^{ひと}女よ 通子よ通子思い出の女
 今ごろどこで暮らしているか 春一番よ教えてほしい